

## Journal of Occupational Science, Volume 10, 2003 日本語ガイド

### A science of occupation: Ancient or Modern?

Wilcock, Ann A

(No 3, pp 115-119)

#### 「作業の科学:昔のこと?今のこと?」

作業療法の歴史を書いた時、ジョン・ロックの思想と研究に注目した。ロック(1632-1704)は英国の哲学者で、教育学、心理学、自由主義デモクラシーに影響を与えた。ルネサンス以降、人道主義が哲学の中で優勢になり、人間の尊厳と可能性を中心においた生のとらえ方、古代ギリシア文化の再認となった。体と心、肉と魂、精神と物体、アイデンティティや運命や道徳と魂の安らぎ、健康と病気の変動が連動している。理由付けや公平さや目的が、真実の名の下で揺らいでいた。エビデンスや事実に基づいて、政治や科学の決断をするという西洋的世界観が広まっていった。ガリレオ、デカルト、ベーコン、ニュートンがロックと同様に合理的方法で実証していった。ヨーロッパでは唯物論、大衆教育、自己主張と充足が合理主義と共に広まった。ロックは人が世界を理解するために必要なこととして次の三点をあげた。①事の本質を知る、②人にとっての理由を知る、③方法・手段である。これは、作業科学発展の参考になる。現代の科学は多くの方法で作業について述べてはいるが、作業の直接的研究は不足している。ロックの方法は十分理解されているとは言い難い。私たちはそれをする必要がある。

### An exploration of addictive behaviours from an occupational perspective

Helbig, Karen and McKay, Elizabeth

(No 3, pp 140-145)

#### 「依存行為に対する作業的視点からの考察」

依存行為がもたらす健康への悪影響が知られているが、作業的視点から論じられてはいない。依存行為は、作業的リスクの要因、作業の性質、環境の影響、フロー退屈との関連で考えることができる。依存は作業的性質をもち、作業中断を引き起こす。依存に対する作業的視点は新たな理解を可能にする。更なる研究の余地がある。

### Enhancing occupational opportunities in communities: politics' third way and the concept of the enabling state

Whiteford, Gail Elizabeth

(No 1, pp 40-45)

#### 「地域における作業機会の増大:政治的第三の道とできる地域という概念」

グローバル化は世界中で作業参加パターンの変化という影響を及ぼしている。作業参加を促進するのか、制約するのか、グローバル化の構造的変化に対する批判的分析が必要である。第三の道から現れる「できる地域 Enabling State」の概念を紹介する。

## **Exploring balance as a concept in occupational science**

**Westhorp, Penelope**

**(No 2, pp 99-106)**

### **「作業科学におけるバランスの概念」**

作業的見地からバランスのとれた生活について考える。個人にとって言いある作業を行うことを通して、能力が発達してバランスがとれるという見解について考え、コントロールの要素を示す。バランスは流動的变化の中で現れる。作業バランス到達のサイクル案を紹介した。これは、環境変化がサイクルの見直しを必要とし、作業の重要性と意味を吟味するようになる。作業バランスを改善するような適切な健康が生まれる。作業の変更が生じ、変化の中での作業の意味と価値を見ていく、というものである。

## **Making sense of what people do: a sociological perspective**

**Smith, Dorothy E**

**(No 1, pp 61-64)**

### **「人がすることの意味づけ: 社会学的見地から」**

仕事をどのように見えるようにしていくのかについて述べる。人々の日々の生活、人間関係、組織、これに関連する見えない力を知るための、機関内エスノグラフィーの方法を紹介する。

## **Making sense of what people do: historical perspectives**

**Wilcock, Ann**

**(No 1, pp 4-6)**

### **「人がすることの意味づけ: 歴史的見地から」**

作業科学の視点で歴史を見直す。人は様々な方法で時間を越えて、行うことの意味を見出してきた。歴史は日々の生活がどのようになされたを理解するためのエビデンスである。さまざまな個別的ニード、異なる環境があった。人は、健康的な生活、人格を高めること、魂の救済、意味のある仕事のために、自らがすることを意味づけてきた。

## **Occupation disrupted: impacts, challenges, and coping strategies for farmers with disabilities**

**Molyneaux-Smith, Laurie, and Townsend, Elizabeth and**

**Guernsey, Judith R**

**(No 1, pp 14-20)**

### **「作業中断: 障害のある農業者にとっての影響, 挑戦, 克服戦略」**

障害のある農業者リスト 111 名から、47 名に質問紙調査を行い、8 名に電話インタビューを実施した。39 名 (83%) が農業を続けていた。作業中断は、不必要な悲劇として語られた。農業者としての職業とライフスタイルを選択する彼らのサポートが必要である。

## **Occupational Profile: An interview with Gabrielle Sherry**

**Reed, Kirk**

**(No 2, pp 107-110)**

### **「作業プロフィール: Gabrielle Sherry」**

Sherry は、ニュージーランド、オークランドの大学で、幼児心理学を専攻する修士課程の 30 歳の女子学生。彼女のこれまでの経験が、子どもへの関心につながっていった。

## **Occupational Profile: An interview with Julie Madorsky, MD**

**Meltzer, Phyllis**

**(No 3, pp 154-159)**

### **「作業プロフィール: Julie Madorsky」**

Madorsky は 59 歳, 娘, 学生, 母親, 妻, 医師, 未亡人という役割を経験してきた。第二次世界大戦の終わり頃, ハンガリーで生き延びていたユダヤ人の両親の下に誕生した。2 歳の頃ポリオが流行し, 左半身が麻痺した。

## **Occupational responses to mid-life and aging in women with disabilities**

**Pentland, Wendy and Walker, Jan and Minnes, Patricia and**

**Tremblay, Mary and Brouwer, Brenda and Gould, Maria (No 1, pp 21-30)**

### **「障害女性の加齢に対する作業的反応」**

35~70 歳 (平均 50 歳) の脊髄損傷の助成を対象にフォーカスグループと電話インタビューを実施した。加齢による変化は作業上にもみられた。加齢による変化は, 価値ある役割と作業をあきらめることを意味し, 孤独と誤解を生み出していた。

## **Occupational Terminology Interactive Dialogue**

**Farnworth, Louise**

**(No 3, pp 150-153)**

### **「作業の用語: Time Use, Tempo, Temporality」**

時間利用, テンポ, 時間性

## **Occupied with ponds: exploring the meaning, beware the loss for kids and communities of nature's small spaces**

**Manuel, Patricia M**

**(No 1, pp 31-39)**

### **「池がいっぱい: 自然スペースの意味を探り, 子どもと地域のために池を守ろう」**

都市開発により, 自然空間が失われつつある。池や湿地があるということが必要であることを, 作業科学の視点から考察する。

## **Rheumatoid arthritis and self esteem: the impact of quality occupation**

**MacKinnon, Joyce R and Miller, William C**

**(No 2, pp 90-98)**

### **「リウマチ関節炎と自尊心: 質の高い作業の影響」**

リウマチ群 143 名, 対照群 142 名を対象に, 自尊心 (Rosenberg's 10-item index, 10 項目, 10~40 点) と作業の質 (連続 7 日間の中で, 価値ある時間, うまくできている時間, 両方の時間数, 5 段階評定で 4 以上) を調べた。リウマチ群と対照群では有意差があり, 自尊心に作業の質が影響していた。

## **Ritualising in book clubs: Implications for eNoving occupational identities**

**Howie, Linsey**

**(No 3, pp 130-139)**

### **「読書クラブにおける慣行: 作業アイデンティティ進化との関係」**

読書クラブに参加する 21 名の女性にインタビューして, 参加することの意味を探った。慣行 (儀式), 読書クラブ活動, 習慣の形成, 社会的階層の経験が自己概念の向上と関連していた。自己意識は発達するのか, 維持されるのか, という議論への関心がさらに高まる。

## **Shaping the temporal patterns of our lives: the social coordination of occupation**

**Larson, Elizabeth A and Zemke, Ruth**

**(No 2, pp 80-89)**

### **「生活の時間パターンの形成: 作業の社会的協調」**

作業科学, 心理学, 社会学の理論と研究から, 日常の作業の中で社会交流が時間の流れをどのように作っているかを調べた。活動の強調と統合は, 高度に洗練されたもので, メンバーと共有する経験によって同調して, 日常習慣の中での順を追ったやりとりを作り出し, 信念と時間を相互に受け入れる状態を作っていた。主要概念として, 作業時間性 (リズム, テンポ, 流れ, 同期性, 個人資源の必要性, 他の作業の代替性を通しての作業のパターン化) を紹介した。最後に, 家と職場での活動の社会的協調性の複雑さについて述べた。

## **Storied approaches to understanding occupation**

**Molineux, Matthew and Rickard, Wendy**

**(No 1, pp 52-60)**

### **「作業を理解するための物語的アプローチ」**

ライフストーリー, ライフヒストリー, オーラルヒストリーなど様々なタイプの個人歴の取り方がある。オーラルヒストリーとナラティブ分析を組み合わせることで, 人がすることの意味を知る強力な方法となるだろう。

## **Storymaking and storytelling: making sense of living with multiple sclerosis**

**Wright-St Clair, Valerie**

**(No 1, pp 46-51)**

### **「ストーリーメイキングとストーリーテリング: 多発硬化症と生きる意味」**

多発硬化症の女性 6 名のフォーカスグループと 10 名のインタビューにより, 人, 病気の意味, 作業の関係を探った。彼女たちは, よくメタファー (隠喩) を使った。メタファーを使って物語を作り, 物語を語ることは直観的に行われていた。病気と付き合うための作業的戦略だった。

## **Young children's comprehension of picture books**

**Lee, Christopher J and Skarakis-Doyle, Elizabeth and Dempsey, Lynn**

**(No 3, pp 146-149)**

### **「幼児の絵本理解」**

27 名の幼児 (平均 42.3 月, 30~70 月) を対象に, 8 ページ 300 語のお風呂に入る本を読み聞かせ, 読み手が再度読み始め, 時々 (11 回) 中断し, 5 秒以内に子どもが先を続ける回数を数えた。ワーキングメモリとボキャブラリとの相関を調べた。ボキャブラリを補正すると, ワーキングメモリとの間に部分相関があった ( $r=0.48, p<0.05$ )。子どもは言葉だけでなく, 自分の経験で理解していた。

## **The role of learning in quilt making**

**Dickie, Virginia Allen**

**(No 3, pp 120-129)**

### **「パッチワークにおける学習の役割」**

ノースカロライナのパッチワークグループリスト 39 ヲ所に研究協力を依頼し、10 ヲ所から承諾を得た。19 回イベントに参加し、参与観察と面接などを行い、エスノグラフィー研究を実施した。今回は学習について述べる。学習には 8 要素あり、①作り方、②道具と使い方、③美、④いろいろな作り方、⑤文化、⑥型と歴史、⑦キルトメーカーであること、⑧全力を尽くすこと、である。学習の仕方を、個人か集団か、構造化されているか否かという尺度で捉えることができる。本などでパターンを学び、さらに新しいパターンに挑戦するのは個人的な構造化された学習である。インターネットを通じた交流や教室で学んでいくのは集団で行われる構造化された学習である。試行錯誤しながら本や雑誌を参考に学んでいくのは個人的な非構造的な学習である。インターネットのチャットや仲間と教えあって学ぶのは集団で行われる非構造的な学習である。

## **Through an Occupational Lens**

**Hilton, Claudia List**

**(No 3, pp 160)**

### **「作業の目を通して: The Dance of Life: The other dimension of time」**

このコーナーでは、作業科学と関連する本、ビデオ、映画などを紹介する。「The Dance of Life: The other dimension of time」は、文化人類学者である Edward T Hall が、時間に関する研究の彼の枠組みを示したものである。

## **With and without words: exploring occupation in relation to young children with autism**

**Spitzer, Susan L**

**(No 2, pp 67-79)**

### **「言葉の有無: 自閉症幼児に関連する作業の探索」**

子どもの研究で何が作業になるかを定義することは困難である。既存の研究で述べられている作業の定義は子どもには適合しない部分がある。本研究では、文献から作業の定義を整理した。作業は、方向付けられた行為の組み合わせであり、身体運動、物、空間、ある時間内での目的に関連している。そして、個人にとって意味がある。3、4 歳の自閉症児のための定義を用意し、観察した内容と照合した。その定義は、作業には、①観察できること、②主観的意味がある、というものである。子どもと大人の間主観的プロセスが生じる。

## **Workers without work: injured workers and well-being**

**Stone, Sharon Dale**

**(No1, pp 7-13)**

### **「労働しない労働者: 傷害労働者と健康」**

傷害労働者 54 名を対象に 12 回のフォーカスグループインタビューを実施した。現状にどう対処しているかについて浮上したテーマは、労働者としてのアイデンティティ強化だった。現実の困難さにおいても参加者は「よい」労働者であろうとしていることが明らかになった。